



せせらぎ通信



春の足音も近づきつつありますが、今月号では2月上旬に行われたマラソン大会についてお伝えします。

球技大会

白熱する決戦の中、男女4種目で勝ち抜いた1年生のクラスは、男子バレーボールが6組、女子バレーボールが1組、サッカーが8組、ドッチボールが3組となりました。どのクラスも沢山の声援の中、クラスの絆が一層深まったと思います。男子サッカーは、8チーム各10人前後で試合を展開して、体格差を気にしないプレーを見せ、思い出づくりとして楽しみました。バレーボールは1チーム6人でやりました。6人以上いるクラスは時間で交代して行い、みんな盛り上がっていました。

どの競技も全力で、クラスでも応援しあって仲の深まった2日間でした。次の球技大会も期待あり！！

(1-6 青木・浅野・菊地・宮崎)

「希望の義足」の講演

12月14日に体育館でガテラ・ルダシングワ・エマニュエルさん、真美さんご夫妻から、無償で義足をつくっていることについてお話を伺いました。アフリカのルワンダで大虐殺により手や足がなくなってしまった人たちに義足をつくられているのですが、必要な資金をどのように集めたかというお話でした。みんな静かに真剣にお二人のお話を拝聴していました。

義足をつくるために、自営業で小さなホテルを始めその売り上げと寄付を集めることで、必要な多くの資金を得たそうです。自分たちの生活が苦しくても、手足がなくなって悲しんでいる人のために無償で義足を提供されていてすごいなと思いました。

今回の講演を通して、自分たちにとって当たり前なことでも他の国では当たり前ではないことや、大虐殺といった怖いことが起きていたことなど、自分の知らない世界を知ることができました。また、悲しんでいる人のために国を超えてまで行動している人がいるということも知れました。この講演で、ガテラさん・真美さんのように悲しんでいる人たちのために何かしてあげられたら、と思いました。(3-9 菊地・高橋)

復活!

磯子職員コラムリレー 第1回 有嶋先生(家庭科)

「最近、気付いた大切なこと」

こんにちは。突然ですが、私は現在32歳です。数年前から、よく思うことがあります。それは「体力ないなあ。」「なんか疲れる。」「前は平気だったのに。」などなど…

人間の骨は、20歳前後をピークにあとは弱くなる一方だそうです。多分、骨だけじゃなくて、体力とか人間の機能全体がそうなんだと思います。そういえば、私は、学生時代に運動をしていませんでした。日常でも体を動かすことをあまりしていませんでした。そのせいで、私の体力のピークは高くないところで止まったのかもしれない。そう思うと、「なんで運動してなかったんだろう…」と少し後悔してしまいます。

若いうち、持っているうちには気付かなかったこと、きっとこれからも沢山出てくるでしょう。みんなも今は取り組む意味が理解できなくても、いつかきっと分かる日が来るので、今は素直に受け入れてみましょう。

例えば、持久走はマラソン大会だけのものではないかもよってことですよ。みんな頑張り！

